

「関東実業団剣道連盟の沿革」

1、関東実業団剣道連盟設立の経緯

全日本実業団剣道連盟が発足した翌年の昭和33年9月に、全日本実業団剣道連盟の役員が中心となって全日本実業団剣道連盟の下部組織として「関東実業団剣道連盟」を発足させ、同時に規約も制定された。

初代会長には、三菱地所(株)副社長の宮田正男氏を推戴。連盟の運営並びに剣道大会の開催などについては、全日本実業団剣道連盟の決定に準じて実施することにした。

会員の中には関東実業団剣道連盟だけに加盟を希望する者や全日本実業団剣道連盟だけに籍を置きたいというものもあり、平成9年5月に全日本実業団剣道連盟の理事会並びに会員総会に於て全日本実業団剣道連盟の下部組織を解除する旨の決議が行なわれ、規約第5条も「本連盟の会員は関東地区に住所を有する全日本実業団剣道連盟の加盟団体であることを要する」の条文を「本連盟の会員は関東地区に住所を有する企業又は企業の事務所に属する剣道部とする」と改定され、名実共に独立した関東実業団剣道連盟として現在に至っている。

2、剣道大会の推移

第1回剣道大会を昭和34年6月7日に44チームの参加を得て東京

後楽園ジムナジウムで開催し、関東実業団剣道連盟としての第1歩を踏み出した。年を重ねるごとに大会参加数が増え平成9年6月8日開催の第39回大会には253チームが参加した。この大会を境に実業界を取り巻く経済環境が厳しくなり、リストラや企業の統廃合等の影響により大会参加数は減少傾向を辿り、平成16年の第46回大会には193チームとなった。幸いに今回の第50回大会には207チームが参加され、連盟創設50周年に相応しい記念大会を開催出来たことは誠に喜ばしい次第である。

3、改善・変更事項

(1) 試合時間の変更

従来、試合時間は1回戦から決勝戦まで4分間であったが、平成7年の第37回大会から、1回戦から準々決勝までは3分間、準決勝・決勝戦は4分間と変更した。

(2) 審判員数の変更

従来、実業団剣道大会では、1回戦から準々決勝まで2人制によって試合が行なわれていたが、出場選手の試合レベルが年々向上し勝敗も紙一重のところが決まる。所謂、群雄割拠の時代に入ったことを考慮して平成9年6月8日の第39回大会から全試合3人制に移行し、より公平な判定と試合時間の短縮を図り円滑な運営を行なうことにした。